

第3群の座長をつとめて

山下 忍
(国立金沢病院)

第16回石川看護研究会学術集会、第3群の座長を務めさせていただきました。看護教育プロジェクトの発表2題を含み、広く捉えれば現任教育に関わる研究3題でした。

第1席の金沢社会保険病院の榎田洋子さんは、日頃の看護実践上の問題を明らかにし、解決の糸口をつかもうと取り組んだ研究でした。透析室の看護婦が対応困難と感じる患者との関わりにおいては、看護婦自身が患者に対し低い自己評価、高い自負心、自戒の念、報酬を求める、正当化、終おりなき関係の6要素が特徴として抽出され、それらは自己防衛規制の要素でもあることから、過度の防衛規制が看護婦の認識に大きく影響し、対象をありのまま見えないようにしている危険があるのではとの報告でした。会場からは、看護婦13名全員が対応困難と感じていたのかどうかについての質問がありましたが、その点は確認できていないと返答されました。また看護婦が患者と接している場面をどの程度時間をかけて観察されたのか質問があり、1場面あたり10～30分という返答でした。

第2席は石川看護研究会 看護教育プロジェクトの発表でした。パトリシア・ベナーによる「一人前看護婦」への教育方法と評価を検討するために、石川県の主な医療機関に対し、その教育方法と評価の実態を調査された報告でした。会場からは、「一人前看護婦」の教育には各施設における看護理念が大きく影響すると思われるが、その点

の調査はなかったのか質問があり、今回は調査されていないとの返答でした。また「一人前看護婦」の経年別位置づけのバラツキが大きいことへは、アンケート内に「一人前看護婦の」定義をしなかったことにも原因があると返答されました。

第3席は同じく石川看護研究会 看護教育プロジェクトの発表でした。成長欲求を活かした新人看護婦教育カリキュラム作成のための一段階として、卒後1年目の看護婦の成長欲求を明らかにされました。その結果、成長欲求として4つのカテゴリーが抽出され、成長欲求に関連し、影響を与える因子として、3つのカテゴリーが抽出され、新人の成長欲求は、自分に対する期待が理想とする看護者の存在や、患者に対して力になりたいという思いなど他者の影響を受けて存在するとの構造が見いだされたと発表されました。これらの概念化が新人教育の内容・方法にどのように活かされるのか伺う前に時間ぎれとなってしまいました。

第3群の発表では木村留美子先生の講評にもありましたが、この結果を今後どのように実践に活かしていくのかが、わかりにくかったことが残念です。しかし、看護教育へのニーズの急激な変化の中、明らかにしていきたい内容であり、そういう意味で興味深いものだったと考えます。

最後になりましたが、不慣れな座長で会場の皆様の意見交換が十分できなかったことをお詫び申しあげますとともに、有意義な一日を過ごさせていただきました。ありがとうございました。